



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月8日

上場会社名 株式会社 駅探 上場取引所 東  
コード番号 3646 URL <https://ekitan.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO 兼 COO (氏名) 金田 直之  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 小嶋 勝也 TEL 03-6367-5951  
四半期報告書提出予定日 2024年2月8日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA※		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	3,044	28.3	119	△40.1	△15	—	△11	—	△743	—
2023年3月期第3四半期	2,373	11.9	200	△5.2	60	△19.7	58	△23.2	51	48.2

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 △740百万円 (—%) 2023年3月期第3四半期 51百万円 (48.2%)

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	△153.55	—
2023年3月期第3四半期	9.55	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	2,677	1,689	63.1
2023年3月期	3,152	2,487	78.9

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 1,689百万円 2023年3月期 2,487百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

2024年3月期の連結業績予想につきましては、非開示といたします。詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	6,018,800株	2023年3月期	6,018,800株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	1,176,541株	2023年3月期	1,171,316株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	4,843,856株	2023年3月期3Q	5,411,043株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

決算補足資料は2024年2月8日（木）に当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(四半期連結損益計算書関係) .....	7
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行するなど、感染拡大防止のための行動制限緩和によって経済社会活動の正常化が進展したものの、不安定な国際情勢の中、原材料価格やエネルギー価格の高止まり、円安を背景とした物価上昇など、経済動向は引き続き先行き不透明な状況にあります。

このような状況の中、当第3四半期連結会計期間では、株式会社サークアにおいて、体制見直しや経費圧縮によるコスト削減の実施、また、新たなジャンルの商材による収益貢献もあり、単体における業績は黒字化したことに加え、チケットレス出張手配サービス「BTOnline」の改修作業の収束、のれん等の無形固定資産の減損による減価償却費の圧縮があり、当該期間におけるグループ全体の営業利益は58,964千円、経常利益は59,747千円と大幅に改善致しました。

当第3四半期連結累計期間においては、当社グループの柱であります乗換案内等の有料会員サービスは、コモディティ化等の市場環境の影響による有料会員の減少傾向に伴い、当サービスにおける収益は継続的に減少しており、新たな柱となる事業創出、ポートフォリオ強化が急務となっております。その一環として、2022年11月にプラウドエンジン株式会社、2023年4月に株式会社駅探I&Iを連結子会社にしたことにより、売上高は大幅に増加しました。

一方、利益面では、株式会社駅探において、貢献利益率の高い有料会員サービス売上の減少、株式会社サークアにおける主力の広告商材、配信メディアの縮小による収益減の影響が大きく、また、前連結会計年度で対応しておりましたチケットレス出張手配サービス「BTOnline」の改修作業の追加コスト、株式会社駅探I&Iの会社設立、株式取得に関する一時的なコストの発生により、減益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益については、第2四半期連結会計期間において、株式会社サークア、新規事業であります「駅探PICKS」の将来キャッシュ・フローの見積もりを行った結果、のれん等の無形固定資産の回収は困難であると判断し、793,498千円の減損損失を特別損失に計上したため、大幅な赤字計上となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は3,044,472千円（前年同四半期比28.3%増）、EBITDAは119,968千円（前年同四半期比40.1%減）、営業損失は15,152千円（前年同四半期は60,094千円の営業利益）、経常損失は11,829千円（前年同四半期は58,903千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は743,768千円（前年同四半期は51,655千円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントごとの対前第3四半期連結累計期間の経営成績は、次のとおりであります。

なお、株式会社駅探I&Iを設立したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、M&A・インキュベーション事業セグメントを追加しております。

#### ①モビリティサポート事業

当第3四半期連結会計期間における当セグメント利益は、乗換案内サービスのコモディティ化による継続的な有料会員の減少に伴い、減益となりました。

当第3四半期連結累計期間では、前述した継続的な有料会員の減少に加え、前連結会計年度で対応しておりましたチケットレス出張手配サービス「BTOnline」の改修作業の追加コストが生じたため、減収減益となりました。

この結果、売上高は1,101,208千円（前年同四半期比7.0%減）、EBITDAは274,707千円（前年同四半期比24.4%減）、セグメント利益は233,726千円（前年同四半期比27.0%減）となりました。

#### ②広告配信プラットフォーム事業

当第3四半期連結会計期間における当セグメント利益は、株式会社サークアにおいて、体制見直しや経費圧縮によるコスト削減の実施、また、新たなジャンルの商材による収益貢献もあり、単体における業績は黒字化したことにより、大幅に改善致しました。

当第3四半期連結累計期間では、前第3四半期連結会計期間からプラウドエンジン株式会社を当セグメントに追加した一方で、株式会社サークアにおいては、改善の傾向は見られるものの、薬機法の改正やその取り巻く環境が厳しくなった影響が大きく、減収となりました。利益面では、前述したとおり、当第3四半期連結会計期間において、株式会社サークアによるコスト削減、新ジャンルの商材による収益貢献もありましたが、第2四半期連結累計期間で発生しましたのれん等の償却費をカバーするまでには至らず、セグメント損失となりました。

この結果、売上高は1,152,045千円（前年同四半期比3.2%減）、EBITDAは15,452千円（前年同四半期比71.3%減）、セグメント損失は59,569千円（前年同四半期は39,392千円のセグメント損失）となりました。

③M&A・インキュベーション事業

当第3四半期連結会計期間における当セグメント利益は、パッケージ販売における大型案件の納品、コスト削減の実施などにより、増益となりました。

当第3四半期連結累計期間では、売上高は793,801千円、EBITDAは49,117千円、セグメント利益は33,346千円となりました。なお、当セグメントは、2023年4月25日付で株式会社駅探I&Iを設立したことに伴い、新たに追加したものであり、比較すべき前第3四半期連結累計期間の金額が存在しないため、当第3四半期連結累計期間に発生した金額のみ記載しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,009,846千円となり、前連結会計年度末に比べ141,271千円増加しました。これは主に、流動資産「その他」の増加96,009千円、受取手形、売掛金及び契約資産（前連結会計年度末は売掛金及び契約資産）の増加88,265千円及び現金及び預金の減少46,836千円によるものであります。固定資産は667,725千円となり、前連結会計年度末に比べ616,648千円減少しました。これは主に、のれんの減少313,796千円、顧客関係資産の減少244,977千円によるものであります。この結果、総資産は2,677,571千円となり、前連結会計年度末に比べ475,376千円減少しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は641,734千円となり、前連結会計年度末に比べ203,594千円増加しました。これは主に、流動負債「その他」の増加116,212千円、1年内返済予定の長期借入金の増加60,348千円によるものであります。固定負債は346,666千円となり、前連結会計年度末に比べ119,832千円増加しました。これは主に、長期借入金の増加175,774千円によるものであります。この結果、負債合計は988,400千円となり、前連結会計年度末に比べ323,427千円増加しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,689,170千円となり、前連結会計年度末に比べ798,803千円減少しました。これは、利益剰余金の減少811,633千円によるものであります。この結果、自己資本比率は63.1%となり、前連結会計年度末に比べ15.8ポイント低下しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間までの業績動向を踏まえ、当社グループを取り巻く環境の変化が激しいことから、当社グループの業績の見通しについて、引き続き、信頼性の高い数値の算定が困難なため、業績予想は非開示としております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,424,983	1,378,146
受取手形、売掛金及び契約資産	388,810	477,076
商品	—	557
仕掛品	12,866	17,187
原材料及び貯蔵品	1,760	1,321
その他	40,567	136,577
貸倒引当金	△412	△1,020
流動資産合計	1,868,574	2,009,846
固定資産		
有形固定資産	60,984	77,850
無形固定資産		
ソフトウェア	313,784	117,339
顧客関係資産	272,490	27,512
のれん	451,244	137,448
その他	102,392	106,115
無形固定資産合計	1,139,911	388,415
投資その他の資産		
その他	83,476	202,906
貸倒引当金	—	△1,448
投資その他の資産合計	83,476	201,458
固定資産合計	1,284,373	667,725
資産合計	3,152,947	2,677,571

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	247,390	276,902
1年内返済予定の長期借入金	9,160	69,508
未払法人税等	13,244	8,626
賞与引当金	13,792	14,707
役員賞与引当金	—	504
受注損失引当金	9,100	9,822
買付契約評価引当金	13,156	13,156
その他	132,294	248,507
流動負債合計	438,139	641,734
固定負債		
長期借入金	90,840	266,614
資産除去債務	14,411	14,411
退職給付に係る負債	—	51,499
繰延税金負債	119,581	12,140
その他	2,000	2,000
固定負債合計	226,833	346,666
負債合計	664,973	988,400
純資産の部		
株主資本		
資本金	291,956	291,956
資本剰余金	293,531	306,633
利益剰余金	2,498,077	1,686,443
自己株式	△595,589	△598,290
株主資本合計	2,487,974	1,686,741
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	2,429
その他の包括利益累計額合計	—	2,429
純資産合計	2,487,974	1,689,170
負債純資産合計	3,152,947	2,677,571

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	2,373,228	3,044,472
売上原価	1,674,386	2,180,730
売上総利益	698,841	863,741
販売費及び一般管理費	638,746	878,894
営業利益又は営業損失(△)	60,094	△15,152
営業外収益		
受取利息	18	2,403
受取配当金	—	705
未払配当金除斥益	157	80
助成金収入	1,500	—
保険解約返戻金	—	963
利子補給金	941	939
その他	111	384
営業外収益合計	2,729	5,476
営業外費用		
支払利息	941	2,098
自己株式取得費用	2,978	—
その他	—	54
営業外費用合計	3,920	2,153
経常利益又は経常損失(△)	58,903	△11,829
特別利益		
債務免除益	18,531	—
特別利益合計	18,531	—
特別損失		
固定資産除却損	—	648
リース解約損	—	1,320
減損損失	—	※ 793,498
投資有価証券評価損	—	9,284
特別損失合計	—	804,751
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	77,435	△816,580
法人税等	25,779	△73,895
四半期純利益又は四半期純損失(△)	51,655	△742,685
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	1,083
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	51,655	△743,768

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	51,655	△742,685
その他有価証券評価差額金	—	2,569
四半期包括利益	51,655	△740,115
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	51,655	△741,339
非支配株主に係る四半期包括利益	—	1,224



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、株式会社駅探I&Iを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

また、第1四半期連結会計期間において、株式会社駅探I&Iがグロースアンドコミュニケーションズ株式会社、株式会社サイバネット及び株式会社アイティジェイの株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 減損損失

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

当社の連結子会社である株式会社サークアの取り巻く外部環境の変化及び新規事業であります「駅探 PICKS」において当初計画より大幅に遅れが生じていることを踏まえ、関連するのれん等の無形固定資産を減損損失として特別損失に計上しています。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	モビリティ サポート事業	広告配信プラット フォーム事業	M&A・インキュベ ーション事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	1,183,703	1,189,525	—	2,373,228
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,183,703	1,189,525	—	2,373,228
セグメント利益又は損失(△)	320,195	△39,392	—	280,803
減価償却費	42,280	56,452	—	98,733
のれん償却額	863	36,752	—	37,615
EBITDA(注)	363,339	53,812	—	417,152

(注) EBITDAは、セグメント利益又は損失に減価償却費及びのれん償却費を加えた数値であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	280,803
全社費用(注)	△220,708
四半期連結損益計算書の営業利益	60,094

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「広告配信プラットフォーム事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間にクラウドエンジン株式会社株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。

当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結会計期間においては84,497千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	モビリティサポート事業	広告配信プラットフォーム事業	M&A・インキュベーション事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	1,099,907	1,151,563	793,001	3,044,472
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,300	482	800	2,583
計	1,101,208	1,152,045	793,801	3,047,056
セグメント利益又は損失（△）	233,726	△59,569	33,346	207,504
減価償却費	40,980	45,465	4,922	91,368
のれん償却額	—	29,556	10,847	40,404
EBITDA（注）	274,707	15,452	49,117	339,277

（注） EBITDAは、セグメント利益又は損失に減価償却費及びのれん償却費を加えた数値であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	207,504
全社費用（注）	△222,657
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△15,152

（注） 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの資産に関する事項

第1四半期連結会計期間において、株式会社駅探I&Iを設立及び株式会社駅探I&Iがグロースアンドコミュニケーションズ株式会社、株式会社サイバネット及び株式会社アイティジェイの株式を取得し、新たに連結範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「M&A・インキュベーション事業」において812,182千円増加しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループのM&A・インキュベーション事業の共同運営を行う株式会社駅探I&Iを設立したことに伴い、報告セグメントを従来の「モビリティサポート事業」及び「広告配信プラットフォーム事業」の2区分から、「モビリティサポート事業」、「広告配信プラットフォーム事業」及び「M&A・インキュベーション事業」の3区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

5. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「広告配信プラットフォーム事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、793,498千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

「M&A・インキュベーション事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に株式会社駅探I&Iがグロースアンドコミュニケーションズ株式会社、株式会社サイバネット及び株式会社アイティジェイの株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、第1四半期連結会計期間においては68,961千円であります。

また、「広告配信プラットフォーム事業」セグメントにおいて、のれんの減損損失を計上したため、のれんの金額が減少しております。当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間において、345,855千円であります。

なお、上記（固定資産に係る重要な減損損失）に当該のれんの減損も含めて記載しております。